

意見募集の結果と対応

34名の方より50件以上のご意見を頂きました。

「頂いたご意見」のうち、同趣旨のものは事務局で適宜まとめて掲載しました。

「社会資本整備に係る九州ブロックの将来の姿」に直接関係しないご意見は掲載していません。

意見該当部分等	意見	意見に対する考え方
1.九州ブロックの現状と課題	(1)自然災害の頻発の影響と豊かな自然環境の保全	頻発する集中豪雨や台風による災害に対し、河道、洪水調節施設等の整備をすすめるとともに、下水道整備等により雨水の貯留や浸透による対策を実施して浸水被害の低減を図ります。
		九州は、風・台風の銀座と言われている。河川管理は、川だけではなく上流の山に植樹して夏の大雨の時に一気に山水が流出しないようしなければ駄目である。河川管理をする場合は九州各地区の状況の実態を充分調整研究して鉄砲水の出やすい場所とか、危険な地区は前もって十分検討して保全をしなければ毎年同じような災害が九州の何処かで生じる。
		自然災害多発が九州の悩みである。
	(2)分散する都市と多自然地域の自立・連携が課題	分散する都市間の交通路の整備が課題である。
	(3)急速な少子高齢化・過疎化の進展が課題	多自然居住地域の機能や魅力の向上を図るため、単独の行政区域内で整備することに限界がある施設や拠点となる都市の高度医療・高度教育施設の機能も享受できるようにするため、隣接市町村間や拠点都市(人口30万人規模の都市)へのアクセス向上を図ります。
	(4)地理的・歴史的に近い東アジアに対する国際競争力の低下	高齢化・過疎化が急速に進行している多自然居住地域においては、日常生活基盤としての社会資本整備等にユニバーサルデザインの導入等を図るとともに医療、教育、福祉など基礎的なサービスを受受するための環境づくりを支援します。
		九州における物流機能効率化を支援するとともに、海外からの投資を促進するため、また九州の美しい自然環境、温泉地などを活かした人的国際交流及び外国人観光客誘致の促進に向けて空港・港湾等の交通拠点及び交通ネットワークの整備を促進し、国際競争力の強化を図ります。

2.九州ブロックの目指すべき将来の姿		九州ブロックの5つの将来目標原案には大賛成です。まちづくり及び駅前再開発でも似たまちづくりが多く個性がなくなっている。	暮らしの豊かさや魅力は地域によって異なることを認識し、長期的な視点に立って、地域の持つ個性を活かし、地域住民が誇りをもって暮らせるとともに、来訪者にも感動や共感をもたらすような、周辺の自然景観や地域文化と調和した、美しく魅力にあふれるふるさととなる個性豊かな地域を目指します。
3.九州ブロックにおける重点事項	(1)安全な国土・危機管理の充実	<p>鹿児島は、10年前の8・6水害という大災害にあった。今度、同じ雨量が降っても、一人として犠牲者が出ないよう整備してほしい。</p> <p>九州は台風や風水害等の自然災害を受けやすい地域である。特に大規模災害に備えた地域づくりに向けた取り組みを最重要視するようお願いしたい。</p> <p>今はどこに行くにも車であり、車があまりにも多くなっている。国道を渡ろうとしても歩道のない場所は渡れない。ある国道は部分的には歩道も付いていなかったり、ダンプなどとすれ違うと恐ろしい。</p> <p>第七管区、第十管区の組織を強化され、保安部、保安所の増設、大型で高速、重装備の巡視船を増強される希望します。もちろん、人員の大幅増員、ヘリコプターの増強など海上保安体制の強化をお願いします。</p> <p>国際社会の今、テロに強い街づくり。万が一に備え、安心、安全な九州を作してほしい。</p> <p>水道水の確保は徹底した節水と自然の利用にあると思う。特に北部九州の水不足を筑後川の水に頼るべきではない。一に節水、飲料以外の水は節水によると思う。家庭の風呂や洗濯の水は設備や機械の工夫で可能になる。二に地下水の利用、都市の全面舗装を止め、雨水を地中に溜めさせたい。</p> <p>子供がいる主婦の立場として、環境を破壊せずに、暮らしていけるように子供達に豊かな自然を与えることを望みます。</p>	<p>多発する土砂災害に対して、砂防えん堤や斜面对策等の土砂流出防止対策をすすめます。また、道路の防災対策をすすめ、災害時の緊急活動等を支える道路を計画的に整備します。</p> <p>台風や集中豪雨に伴う風水害、高潮等の自然災害や大規模地震や火山噴火等の大規模災害に備えた国土づくりに向けた防災や国土保全事業を推進するとともに、リダンダンシーに優れた社会基盤を確保し、併せて災害を未然に防除し、又は被害を最小限にとどめるため、防災計画の策定、防災ボランティアの育成等災害時における安全確保に向けての社会システムの構築を図ります。</p> <p>生活道路の安全確保のために、地区内への通過交通の進入を抑制し、地区内速度規制やコミュニティ道路の整備を面的に実施する「あんしん歩行エリア」や「くらしのみちゾーン」の形成をすすめます。</p> <p>国際交流の窓口となる港湾・空港において、テロに対するハード対策及びソフト対策(ハイジャック検査等)の保安対策の強化を推進します。</p> <p>限られた水資源を有効に活用するために、下水処理水を高度処理して農業用水の確保及び修景用水や雑用水等として再利用の推進を支援します。</p> <p>良好な河川環境を保全・再生する河川整備、下水道整備、生態系に配慮した道路構造の採用に加え、良好な湿地環境の再生や砂浜の復元・創造をすすめ、美しく豊かな自然環境を保全・再生します。</p>

<p>(2) 循環型社会に向けた社会基盤づくり</p>	<p>福岡都市圏の近くでの、再資源化、資材再生基地確保が急務と思われます。例として筑豊に残存する、ボタ山等の再利用等を考えたらいかがでしょうか？又、遠賀川等の河川再生に筑豊経済再生を考えて、流域を合併処理浄化増加重点地域とし対策を取られたらと考えます。関係省庁との連携も大事と思われます。</p>	<p>新技術の活用による老朽化した排水機場の機能再生・高度化や総合静脈物流拠点(リサイクルポート)を拠点とした静脈物流ネットワークを構築することによる鉄スクラップ、古紙、ペットボトル等の効率的なリサイクル及び建設副産物のリサイクルをすすめ、廃棄物の排出量の抑制を図ります。また廃棄物処理場の不足に対応するため、海面廃棄物処分場の整備等をすすめます。その他に、下水汚泥処理場の広域化・共同化を図り、効率的な処理や資源の再利用をすすめます。</p>
	<p>最近各地域でボランティア活動の芽が出て、かなり活発化していますが、各組織間の連携がまだ充分でない。そこで地域づくり活性化センターのようなものを各小都市に作りネットワーク化を早急に推進するべきと考えます。</p>	<p>地域住民やNPO等と連携し、地域と一体となった河川の水質浄化対策や河川や道路の維持管理等の活動を推進し、良好な水域の保全や道路環境の保全に努めます。</p>
	<p>開発のスピードを遅らせてでももう少し自然環境保護に意を注ぐべき時代が来ている。開発をすべて否定するのではない。「自然と共生する」という思想をもっと強くアピールして欲しい。</p>	<p>九州を育む恵まれた自然環境は、暮らす人、訪れる人に広く愛され活用されつつ、次世代に継承されなければなりません。このため、社会資本の整備に際しては地域の生態系や景観に配慮するとともに、自然環境の再生・創出に取り組めます。また、有明海・八代海をはじめとする閉鎖性水域等については、藻場・干潟の造成、流域の水循環の改善及び海洋汚染の防止等総合的な施策によって良好な水域の保全・創造に取り組めます。</p> <p>社会資本の整備に当たっては、環境負荷の低減に配慮し、建設廃棄物の再資源化・縮減、再生資材の利用促進等を推進します。また、静脈物流システムの構築等を支援する基盤整備に取り組み、循環型社会の形成を図ります。</p> <p>さらに、地球温暖化防止や生活環境の改善に向けて、都市部における交通円滑化やTDM(交通需要マネジメント)、モーダルシフトの推進、低燃費車・低公害車等の普及等による環境負荷の少ない交通体系の形成等を促進します。</p>
	<p>災害を防止するために必要な工事と自然を守ることにについて国はどのように考えているのか、もっとアピールする必要がある。</p>	

<p>(3) 拠点都市の機能高度化</p>	<p>大きな都市周辺の都市においては、市街地がさびれてきている。地域の特色を生かした街にする支援が必要である。</p> <p>一極集中しないようなバランス配分を考慮した拠点都市づくりの必要性を強く感じる。</p> <p>重点事項 拠点都市の機能高度化がむしろ重点事項を逆進化させる危惧感を抱かせているようである。一方、山村地域、離島地域、半島地域等と多自然居住地域との関係が用語的に捉えにくい。</p>	<p>都市の構造を再編・再構築するため、都市圏の環状道路やバイパスの整備及び市街地におけるシンボルロードの整備や土地区画整理事業等の面的整備による街区の再編等により、魅力と賑わいのある都市空間の整備をすすめ、あわせて市街地再開発事業等による住宅供給により街なか居住をすすめます。また、河川においては景観、自然との調和に配慮し、都市における魅力あるまちづくりをすすめます。</p> <p>九州の特性である適度に分散する拠点となる都市と多自然居住地域との近接性を活かして、双方のメリットを享受できるようにするため、拠点となる都市の機能を充実し、魅力を高めることが重要であり、多くの人を訪れる都市観光や研究開発型・知識集約型産業等の立地を支援するための都市機能の充実や中心市街地、工場跡地等の都市の再整備による新たな機能の充実を図ります。</p>
<p>(4) 多自然居住地域の生活基盤づくり</p>	<p>拠点都市の機能を高め、交通・情報アクセスを充実する。そして自然・歴史を活かした居住地域を創造することは大変価値あることと思考されます。九州の現況をみると空路は別として道路網の整備は西部にその重点的幹線道路が存在し東部（佐伯から宮崎間）には従来の国道10号がわずかに存在し、都市間の生活道路としてあまりにも時間の無駄が甚だしい限りです。</p>	<p>多自然型居住地域においても高度医療や高度教育施設等の都市的サービスを楽しめるよう規格の高い道路ネットワークの整備をすすめ、また、隣接市町村間の相互連携を支援するため幹線道路の整備をすすめます。</p>

(5) 広域交流ネットワークの確立	九州全体を見渡す中で、新幹線・高速道路・空港のそれぞれの地域での役割分担が必要である。例えば、国際線は福岡から、それに付随する鉄道・道路を直結させるような形をとるべきだと思います。各省庁の横の連絡が必要になると思います。	複数の交通機関の連携を通じて利用者のニーズに対応した効率的で良好な交通体系を整備するため、空港・港湾等の交通拠点の整備及びそれらと周辺インターチェンジ等を結ぶ幹線道路の整備をすすめ、総合的な交通ネットワークの構築をすすめます。
	現代社会に於ける主要幹線道路が地方経済・文化の発展、交流等に及ぼす効果は甚だ大且つ必要、欠くことのできないものであると思われます。大分県南部そして宮崎県北部の山間部（県境）の地形が広域交流の妨げとなり、九州ブロックの中で全ての面で遅れをとっている。公平な社会資本の整備を考察するならば前記区間の早急なる幹線道路の整備着工が必要である。大分・宮崎両県民の切実な願望かと信じている。	基幹都市及び地方生活圏中心都市を連携強化する循環型広域交流ネットワーク構築のため、国土の骨格を形成する大量・高速交通機関であり、基幹都市間の移動時間の大幅な短縮に資する整備新幹線、高規格幹線道路及び地域高規格道路の整備を図るとともに、広域交流ネットワークを補完する幹線鉄道や幹線道路の整備をすすめ、基幹都市間の3時間圏域の確立を図り、産業経済の発展や日常生活の安定を支えます。
	九州地方の力強い経済産業の発展と地域の日常生活を支える交通体系が最大の急務と思われます。従って九州内を広域的活動ができる今回のような、博多～熊本～鹿児島の新幹線開通は大変よい。と同時に今度は博多～大分～宮崎～鹿児島に通ずる新幹線と高速道路の実施に期待します。	
	南九州西回り自動車道の日奈久市来間の早期完成を希望しています。	
	東九州自動車道、特に日向市～宮崎市、日向市～延岡市までの道路整備を進めてほしい。	
	「基幹都市間の3時間圏域の確立を目指す」ことは賛成です。やはり若者の職場及び住居がある都市から、両親の病气や祭りのために、故郷に3時間で帰れることが、若い人が九州に住む条件となるのではないのでしょうか。	
(6) 環黄海・東シナ海を中心とした国際交流基盤づくり	九州は、何と云っても東アジアに最も近くお互い交流するのは最適条件にありますので、産業は勿論、互いの良い所や珍しい所を「アピール」して観光面でも互いに交流し合わなければ地理的条件がよいと言っても、無意味である。	九州の美しい自然環境、温泉地などを活かした人的国際交流及び外国人観光客誘致の促進に向けて空港・港湾等の交通拠点及び交通ネットワークの整備を促進し、国際競争力の強化を図ります。